勝興寺/御霊屋

この寺院は、1810 年に前田治脩（1745-1810 年）と前田斉広（1782-1824 年）が勝興寺を支援したことを記念して建立されました。治脩と斉広は、16 世紀から 19 世紀半ばまで加賀藩（現在の富山県と石川県）を治めていた前田家の 11 代目と 12 代目の藩主です。

治脩は幼少時に勝興寺に入り、11 歳で住職に任ぜられました。20 代半ばまで勝興寺に仕え、還俗し、加賀藩の大名となりました。治脩はその後も勝興寺の強力な支持者であり続け、1795 年には本堂の建設資金を援助しました。もう一方の斉広は治脩の養子で、1802 年に父の退位により大名となりました。斉広は、前田家として勝興寺への財政支援を続けました。この御霊屋は重要文化財に指定されています。